



日本における新しいエリートとその資本

令和7年5月16日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

彼らの現実にはグローバル基準における自己を有するのである。それはグローバル基準と現実を有するのである。

また富の構築は、現状の物価格差において、グローバリズムにおける富の構築を有するものであり。

これらは、明らかに今日の日本の転換と2分化なのである。そしてそれは唯一の生き残りの手段であることは理解する履きである。

今日世界はグローバル経済の統一において、その統一基準と現実を有するのである。それらは先端性と資本力における新しい経済システムへの転換である。

これらが黒船という日本の開国を要求する現実なのである。

これら変化が今日日本社会の完全な転換であり、その資本力における世界の現実が日本が追いつくことができないものである。

またこれら世界の富への従属性は、彼らの現実への参加をグローバルスタンダードにおいて求めるものであり、企業においてそれは今日不可避の現実であり、生き残りにおける唯一の可能性なのである。

これらが飛躍的スピードで進歩するグローバル経済と自由経済システムにおいてそれら競争原理における企業経営において、それら世界の現実を否定することはできないのである。

これら現実のシビアさは、企業が与えられる踏み絵である。世界の富への従属と自己の独立自立という選択なのである。

これら現実における企業判断は必ず将来に与えられる新しい現実においてその判断を得るものである。今日の変化は新しい世界への序曲にすぎないのである。